

## 留学のすすめ

2022. 10. 26

できることなら、若いうちに海外に行った方がよい。チャンスがあれば必ず行くべきである。とはいっても就職して社会に出してしまうと、その機会は限られてくる。1週間程度の旅行ではない。少なくとも2週間程度、できれば半年から1年の期間に渡っての滞在である。理想は、仕事に就き、20代のうちに2年程度の海外駐在である。こうなると、その機会はかなり狭まる。

そこで、大学生の留学となる。以前から私立大学を中心に留学プログラムが組まれていた。3年ほど前だったか、国立の千葉大学が全員留学を打ち出した。千葉大学の web ページを見てみた。2020年度から学部・大学院生の全員留学を実施するとある。2020年度以降の入学者は、多くの学部・研究科等において、卒業・修了までに一度の海外留学が必要とある。学生を強制的に留学させるというわけである。

ねらいはというと、web には、「未来の社会で活躍するためには、海外経験は必須です。海外から日本を見て日本と海外との違いを感じてもらい、『国際的な感覚』を身に付け留学後の学生生活に生かしてもらいたいです。留学によりグローバルに活躍するための第一歩を踏み出しましょう」とある。

我が家の娘が入学した大学の学部では、2年生の後期に半年間の海外留学プログラムが組み込まれている。海外の大学に行って授業を受けるわけだから、それ相応の英語力が必要となる。大学に入る前の3月下旬に英語のテストがあった。その成績により、10段階のクラスに振り分けられた。娘のまわりには、英語がペラペラの人もあるそうで、一番下のクラスになったらどうしようと心配していた。幸い、ほどほどのクラスでとどまった。

大学に入ったのはいいが、入学式はなく、アパートの部屋代を払いながらも住むこともなく、コロナとともに歩む大学生活となった。期待はしていなかったが、2年生後期の留学は中止となった。コロナ禍が続いている中で、予定通り実施しますと言われても、親としては心配である。

3年生になり、9月に半年間の留学の代わりとして、希望制による17日間の短期留学プログラムがあった。娘は希望した。短期ではあったが、海外の大学の授業を受け、その国の文化や人に触れることができた。毎日送られてくるラインの画像や動画を見ていると、こちらまで、その国に行ったような気分になってくる。便利な世の中である。コロナ禍が収束したわけではないが、1年前とは受け止め方が違う。

若者には、どんどん海外に行ってほしい。行かなければわからないことがある。感じるができないことがたくさんある。百聞は一見に如かずである。日本のことしか知らなかったところに、もう一つの価値観や判断基準が生まれる。これは大きい。今までよりも、物事を深く考えることができるはずである。

日本の若者が内向き志向だという話もある。そうであれば、プログラムに組み込んで行かざるを得ない状況に追い込まれた方が、結果的には若者のためになる。チャンスがあれば、留学をおすすめしたい。きっと後悔しないであろう。これからの人生の糧を手にするはずである。